

逆走対策技術カタログ ～物理的・視覚的対策～

【技術名】

プレッシャーウォール

1.基本事項（1／3）				
技術番号		No.7		
技術名		プレッシャーウォール		
型式番号		—		
企業名		JFE建材株式会社		
問合せ先	電話	[TEL] 03-5715-7840 [FAX] 03-5460-3233		
	E-mail	y-shimada@jfe-kenzai.co.jp		
	住所	〒108-0075 東京都港区港南1丁目2番70号品川シーズンテラス11階		
	担当部署	フェンス・道路技術部 防音・道路技術室 室長 嶋田祥敬		
対策箇所数		全38箇所 【R6.3.31時点】	NEXCO 東日本	4箇所（栄PA など）
			NEXCO 中日本	28箇所（談合坂SA など）
			NEXCO 西日本	6箇所（松茂PA など）
特許関係		・特許6955361、・意匠（1592703、1592704、1592705） ・商標 プレッシャーウォール：登録5990587		
設置状況		 		

1.基本事項（2／3）

技術概要

圧迫感を与える程度に大きい表示板を路側に連続設置し、逆走車両へ注意喚起するもの。

・「×逆走×」を記した大型壁材を両側の路肩に連続設置することで逆走車両に圧迫的な存在感と威圧感を与え、逆走を抑制

【設置イメージ（逆走側）】



【設置イメージ（順走側）】



1.基本事項（3／3）

技術の強み・長所

- ・ 大きい表示板を密に連続設置することで存在感・違和感を与える
- ・ 基礎ブロック・杭基礎で対応、現場状況に応じて選択が可能。

技術の短所・留意点

- ・ 置き基礎のため、ガードレールの外側に設置可能な土工部など、設置場所の条件(面積、勾配等)がある。
- ・ 順走車両から文字が見えない位置に設置する必要がある。

技術改善内容
(改良・改善記録)

—

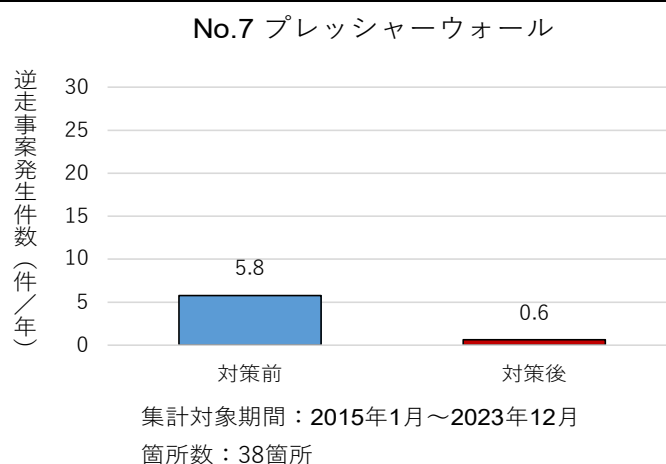
2.逆走対策技術としての検証・評価（1／2）	
検証箇所（代表例）	高松自動車道 豊浜SA（上り） 工場内での実験（被験者等の詳細不明）
（技術開発企業による調査結果）	
技術の認識度	【対逆走車】 ・工場内走行実験において、昼間は十分に文字の視認可能。夜間も十分に視認可能で、15～20m手前が最も反射して目立つと結論。 ・SAでのアンケートの結果、93%が「看板の文字を認識できる」と回答。なお、認識できないと回答した理由として、「視力が悪い」、「『×印』は分かりにくい」、「赤地に文字があるのは分かりにくい」等の意見あり。なお、「昼間の方がインパクトがある」との声もあり。 【対順走車】 ・工場内走行実験において、昼間は安全性に問題無しと結論。夜間は昼間に比べるとやや存在感があるが、安全性に問題無しとの結論。
技術認識時の挙動確認	【対逆走車】 ・定点カメラによる観察の結果、逆走未遂が1件発生するも、当該技術のかなり手前で転回している。当該技術を視認しての行動かどうかは不明。 ・SAにてアンケートを実施。当該技術が目に残った場合の行動を問うたところ、98%が停止すると回答。走り続けると回答した理由は、「事前に周知されていないと分からない」、「年配者でも理解できるか疑問」、「認知症になったら自信が無い」との意見。 【対順走車】 ・定点カメラによる観察では、隣接本線も含め、異常な挙動は確認されず。 ・SAにてアンケートを実施。当該技術の存在に気付いたかの問いに対し、94%が「気付かなかった」と回答。気付いた回答者も、「運転に影響は無い」と回答。1人のみ、サイドミラーで当該技術の存在に気づき、「ブレーキを踏む人がいるかもしれない」との懸念あり。 また、98%が「順走車に対する悪影響なし」と回答し、影響ありと回答した者は、「何の標識なのか気になる恐れがある」と回答。

2.逆走対策技術としての検証・評価（2／2）

検証箇所（代表例）

（試行設置期間における検証項目及びその評価）

逆走対策効果



費用関係

- ・ 1 セット（8 基）の金額
⇒ 3 3 0 万円/セット
※上記は、パネル本体 8 枚一式のセット価格
※杭基礎・コンクリートブロックの価格は含まない

維持管理関係

- ・ ランプ部での設置が多いため、損傷が発生した際、補修に通行止めを要する場合がある。

留意事項

- ・ 反対車線が近接する区間などは、順走車両から文字が見えない位置に設置する必要がある。

3.汎用性

適用事例①

[illegible]

4.参考図面

図面番号②

JFE建材ホームページ

<https://jfe-kenzai.co.jp/products/pressure-wall/>

